

エリアウェーブ

- 掲載内容
- ・ 峡東教育事務所 副所長
 - ・ 峡東地域の教育活動/ イベント等の紹介
 - ・ 峡東教育事務所からのお知らせ

令和5年3月1日 発行
 峡東教育事務所
 教育支援窓口(地域教育担当)
 電話 0553-20-2731
 Fax 0553-20-2733

「手間と時間をかけて」

山梨県教育委員会 峡東教育事務所 副所長 霜村 文晴

笛吹市にある自宅から、山梨市を通り甲州市にある峡東教育事務所までの通勤路、楽しみにしていることがあります。それは沿道の随所にモモ、スモモ、ウメ、ブドウ、カキなどの畑があり、四季折々にその表情を色鮮やかに変えていく様子を眺めることです。



霜村 文晴 氏
 峡東教育事務所での勤務は通算6年目。芦川小学校校長を経て、令和4年度より副所長として勤務

春には桃源郷の名の通り、淡い桃色の絨毯が広がり心を和ませてくれます。夏には日差しをたっぷり浴びて、ふくよかに実ったモモに元気をもらっています。秋には棚いっぱいブドウの房が垂れ下がり、玉の瑞々しさに驚かされます。また、枯露柿がまるで簾のように連なり、北風に吹かれながらも熟成を静かに待つ様に逞しさを感じます。冬にはすっかり葉を落とし枝だけが際立ちますが、その先に春を待つ兆しを見つけると明るい気持ちになります。

昨年7月、農産業に携わる方々をはじめ、峡東地域にとって喜ばしい出来事がありました。それは、「峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システム」が、国連食糧農業機関の「世界農業遺産」に認定されたことです。御承知の通り、峡東地域は我が国におけるブドウ栽培発祥の地とも言われ、地形や気候を巧みに利用しながら、長い年月をかけて品質の高い果物を生産するための高度な栽培技術を創り上げてきました。また、甲州式と呼ばれる江戸時代に考案されたブドウの棚式栽培や、手間ひまかけた、きめ細かい栽培方法は世界的にも独特の技術であり、海外でも評価されているそうです。今ではブドウ150種類、モモ90種類の生産をはじめ、枯露柿の生産やワイン

醸造など果実加工も盛んで、観光農園も展開しています。これまで農産業に携わってきた方々の努力によって培われた生産技術や活用方法が、脈々と受け継がれています。

ところで、コロナ禍前、初任者研修の一環として地域企業研修を行っていました。初任者が実際に作業を体験することにより、職業人としての自覚を高めるとともに地域産業の教材化や地域と教育の関連について学ぶ機会としました。5年間ほどは勝沼町菱山地区でブドウ園を営む方の御協力を得て、農場の整備、テラウェアの収穫と摘果作業をさせていただきました。さらに、ワインの醸造過程やワイン蔵の見学、まとめとして、「これからの農業のあり方と教育について」と題して講義もしていただきました。地形・地質・気候風土を活かしながら、手間ひまをかけて工夫を重ね知恵を絞り培ってきた技術によって、質の高い果実を実らせ峡東地域の農産業を支えてきたことを学ばせていただきました。さらに、こうした営みは教育にも相通ずる営みであることを強く感じました。

この研修を受講した初任者も今では経験を重ね、それぞれの勤務校において先輩教師や同僚とともに手間と時間をかけて、工夫を重ね知恵を出し合いながら子どもたちの幸せのために教育活動に邁進していることと思います。時代の変化に対応しながらも大切にすべきことを見極め、実を結ぶことを信じて歩みを進めてほしいと心から願っています。

いつもの通勤路、枝の先から白梅が顔を覗かせています。気持ちがぱっと明るくなりました。



「一日税務署長」～税金のあり方を考えてみる～ 山梨税務署・山梨地区納税貯蓄連合会



訓示で税についての作文を発表する

12月20日に令和4年度の「税についての作文コンクール」で全国納税貯蓄連合会会長賞を受賞した山梨南中学校3年の石井裕乃さんが、山梨税務署の一日署長を務めました。石井さんは税務署長から委嘱状を受け取ったあと、関係者との名刺交換・模擬決裁・署長訓示を行いました。訓示の中ではコンクールの受賞作文「税金のあり方を考えること」が発表され、山梨県の特徴・公的サービスと財源の問題・ミネラルウォーター一税導入時の利点と問題点などが述べられました。最後には少子高齢化が急速に進む現代において、歳出面の見直しと同時に固定観念にとらわれない税の歳入構造についても考える必要があるとの提言もありました。「税を知り今後のあり方について考えを深めていくことが、次世代を担う私たちの責務である」との言葉を聞き、あらためて若者への期待を感じることができた時間となりました。



関係者と「イータ君」との記念撮影

「金川の森で冬の鳥をウォッチング」～生きもの博士養成講座～ 山梨県森林公園 金川の森



カラスも2種類いるとのことで探してみる

に目を配り、鳴き声に耳を傾け、わずかな気配を感じるように神経を集中させる。参加者の声が自然と小さくなるなかで、普段は気にすることのないわずかな風の動きも感じられるようになっていきます。金川の森には年間で60種類の鳥が渡ってくるそうですが、他の場所では見ることができない留鳥（同じ場所にいる鳥）や漂鳥（季節により移動する鳥）もたくさんいるとのこと。時間があればゆったりと空を見上げてみませんか？

1月15日に金川の森（どんぐりの森）で「金川の森で冬の鳥ウォッチング」が行われ、小学生を含む14名が参加しました。冬は鳥にとって活動が厳しい季節ですが、鳥たちは一生懸命に活動することで生活を営んでいます。「鳥たちの行動ひとつひとつには、必ず意味があるのです」とのガイドの言葉があり、ウォッチングが開始となりました。まず観察時の注意として、「声を下げる・動かない・双眼鏡で太陽を見ない・覗くときは静止する」などがありましたが、最も大事なものは「集中」することです。鳥の動き



声を潜めながら鳥の動きを追う

「図書館ボランティア」～読み聞かせが伝えていくもの～ 山梨市立八幡小学校



抑揚のある語り口に引き込まれていく

に耳を傾けます。読み聞かせの本は司書の先生が実施時期にあったものを選ぶ場合もあれば、語学に堪能な保護者が洋書の絵本を紹介したこともあるそうです。次回は低学年が対象のため、6年生にとっては今回は最後の読み聞かせとなりましたが、自分たちのために多くの大人が時間を作ってくれた体験は将来の財産となるはず。この活動が多くの善意に支えられる中で、今後も「持続」していくことを願っています。

八幡小学校では月に1回のペースで保護者やボランティアの方を講師とする「図書館ボランティア（読み聞かせ）」を行っています。コロナウイルス感染症の影響で実施形態を工夫しており、現在は月ごとに低学年（1～3年）と高学年（4～6年）を交互に教室で行っています。朝8時25分の開始時間が近づくと児童は自然に着席し講師を待ちます。そして挨拶が終わると読み聞かせが開始され、児童はじっと講師の声



鳥の巣を持参するのも工夫のひとつ

「百人一首大会」～真剣だからこそ楽しめる～ 笛吹市立一宮北小学校・石和東小学校

百人一首は飛鳥時代から鎌倉時代初期までの代表的な歌人百人の和歌を一人一首ずつ集めて作られた秀歌撰です。様々な種類の百人一首がありますが、一般的には歌人の藤原定家が選んだ「小倉百人一首」のことを指します。今回は峡東地域で行われた2つの小学校の「百人一首大会」取材しました。



大会に向けて準備をしてきた人は？

最初の2分は札の場所を暗記。「得意札はどこにあるのか・・・」など、限られた時間の中で思考します。そして競技開始と同時に視線は札に集中します。6年生にとっては最後の大会ということもあり、どの児童も冬休み前から準備をしてきました。結果の如何に関わらず、目標に向かって真剣に向き合った経験は人生の糧となるはずで

1月19日 一宮北小学校(6年生)

以前は体育館に全校生徒が集まって行っていたのですが、本年度は学年別に教室で実施する形式となりました。当日は6年生を取材しました。開始前に各自が黒板に目標を書きましたが、多かったのが「札を10枚以上とりたい」というもの。初めに担任の先生から「みんながこの大会に向けて頑張ってきたことはよく分かっています。今日は楽しみながら競技にのぞんでください」との話がありました。開始時間が近づくと児童の顔つきは緊張で引き締まってい



とった札を確認してもら



準備完了。1年生もやる気満々です



2年生になると反応も早くなる

1月26日 石和東小学校(1・2・3年生)

本年度は学年別での実施で、1・2・3年生を取材しました。1・2年生はグループを作ったの対戦、3年生は1対1で相手をローテーションしながらの対戦となります。札が読まれるまでの約束は、1年生が「手を頭に置くこと」、2年生が「手を机に置くこと」で、静かになったら担当の先生が札を読み上げます。「やったあ!」「分かったのに・・・」などの歓声が随所であがります。どちらの取り札が曖昧な場合はじゃんけんで決めますが、そこでも新たな歓声。1年生も札をよく覚えてきており、見ていて感心するレベルです。やはり学びには楽しむことが一番。満面の笑顔で札をとる児童を、優しく見守る保護者のまなざしが印象的なひとときでした。



3年生からは1対1の勝負。真剣そのもの

「太鼓練習」～地域の伝統を受け継いでいく～ 山梨市立岩手小学校



まずはきちんと静止。そして演奏が始まる



上級生が下級生に教えるのも伝統

1月17日、岩手小学校の3・4・5年生は来年度の発表に向けて「太鼓練習」を行いました。例年は地域のお祭り・体育祭・敬老会等でも発表を行っていますが、近年は新型コロナウイルス感染症の影響があり実施できなかったものもあるそうです。太鼓の指導やメンテナンスを含めて地域の協力体制があり、練習当日もOG2名が指導に訪れました。相互の挨拶が終わってバチを握ると、児童の顔つきはキッと引き締まります。冬休みの自主練習の成果を出そうとするためか若干の緊張感も伝わってきます。そして、5年生の「そおれ」の合図で演奏が開始。腹の底まで太鼓の音がズンと響いてきます。太鼓の演奏を通じて児童が成長する点は「より高いレベルを目指す向上心」と「相手のことを考えること」とのことですが、各学年の児童がお互いの役割を認識しながら練習は続いていきます。自然と上級生が下級生に構え方や打ち方を教えていく。これも岩手小の受け継いできた大切な伝統なのです。



最後まで意識を集中させる

「諏訪神社清掃」～協力して歴史を守っていく～ 甲州市立大和小学校・宮本地区長寿会



今回は枯れ葉の掃き掃除を担当しました

甲州市大和町にある諏訪神社は寛政5年（1793年）の建築で、江戸時代後期の特色がみられる神社です。毎月25日に宮本地区の長寿会の方々が清掃を行っており、5月は5・6年生、10月は3・4年生、1月は1・2年生も参加して清掃活動を行いました。1月は前々日の降雪の影響もあって26日に延期されましたが、所々に雪が残っており非常に寒い中での活動となりました。参加者は長寿会が15名、1年生が5名、2年生が8名、教職員が5名で、子供たちは境内に落ちている杉の枯れ葉を掃き掃除、長寿会の方々は境内の掃き掃除・拝殿内とその周囲の掃き掃除を行いました。長寿会による清掃は30年以上続いているそうです。以前は地域の育成会の子供たちが定期的に行ってきましたが、子供の人数が減ってきたなどの理由により継続できなくなり、長寿会が引き継いだとのこと。大和小学校の子供たちがお手伝いを始めてから10年以上経ちます。活動を続けていくことで地元への理解が深まり、それが歴史を受け継いでいくことにもつながっていくのです。



きれいになって満足です！



協力しながらの作業は楽しいもの

「御陣屋太鼓クラブ発表会」～1981年からの伝統が伝えるもの～ 笛吹市立石和南小学校



40年以上の伝統を受け継いでいく

1月24日に石和南小学校体育館において、御陣屋太鼓クラブ発表会が行われました。当日は保護者も参観する中で児童の元気あふれる演奏が行われました。1981年に御陣屋太鼓同窓会として発足し、多いときには100名を超える児童が所属していたそうです。（なお、御陣屋の名は江戸時代に石和陣屋があったことに由来するそうです）「タン・タ・ターン」で始まる御陣屋太鼓の演奏。40年を超える歴史の中で少しずつ変化しながら受け継がれてきましたが、児童が一生涯懸命に取り組む姿勢はいつの時代も変わることはありません。リズムを整えながら体全体を使った太鼓の音は、聴衆の体の奥底に響き渡ります。講評の「ここまで心折れずによく頑張ってきました」という言葉に象徴される、思いがみんなに伝わる演奏会となりました。



全員で声を合わせての決めポーズ



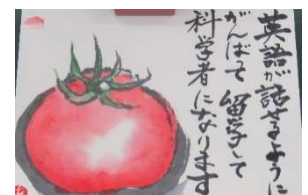
演奏も中盤。児童の集中も高まっていく

「絵手紙教室」～小学校の思い出を筆に込めて～ 甲州市立勝沼小学校



上はやさしく下はしっかり書くのがコツ

1月27日に勝沼小学校の6年生を対象に絵手紙教室が行われました。30年にわたって県内外で絵手紙の指導を行っている鈴木愛子さんを講師に迎え、全3回の教室で卒業制作となる絵手紙を作成します。ほとんどの児童が絵手紙を書くのは初めてということもあり、今回は各自が持参した画材を使ってデッサン等の練習を行いました。絵手紙をうまく書くコツは「紙いっぱい大きく・下はしっかり（土台となる）・上はやさしく」書くことだそうです。児童は画材をどの面から書くのが最適なのかを試行錯誤しながらデッサンに取り組みます。最初は細かった線も先生のアドバイスをもらうことで次第に太くなっていきます。それぞれの思いが込められた絵手紙が完成する日が楽しみです。



アングルを決めたら集中あるのみ

「PTA 親子活動」～体も心もホカホカ (*^o^*)～ 山梨市立笛川小学校

1月27日に笛川小学校の体育館において、4年生対象の「PTA 親子活動」が行われました。例年はドッジボールなどのなじみのある種目



まずはストレッチで体をほぐします



作戦タイム。どのチームも真剣です

を行うことが多いようですが、本年度は山梨市生涯学習課の根津さんを講師に迎えて「スポーツ鬼ごっこ」を体験しました。まずはアップとして親子2人での鬼ごっこを行いました。3つの決めごとの「じゃんけんで負けた方が逃げる（あいこはジャンプ）・走らずに早歩き・コート内のみ移動可能」があるだけでかなり白熱します。体も温まっていよいよ試合開始。相手陣地にある宝をゲットすれば1ポイントで、最終的には総ポイント数で勝敗が決まります。攻め方・守り方・攻守の人数バランスなど、よく考えないとポイントはあげられません。講師から「大事なことはコミュニケーションをとること」とのアドバイスもあってか、作戦タイムや試合中にも声を掛け合う姿が見られました。最初は遠慮がちだった保護者もいつしか本気モードになり、いいプレーには歓声があがっていました。今年一番の寒波が襲来中でしたが、心も体もホカホカに温まった楽しい時間となりました。



子どもたちのスピードについて行くのは大変

「目標を達成できたかな？」～縄跳びチャレンジ～ 山梨市立日下部小学校



2年生のチャレンジを5年生がサポート

2月1日に日下部小学校のグラウンドにおいて「縄跳びチャレンジ」が行われました。児童の体力アップを目的に、例年2月初旬に実施しています。チャレンジでは1・6年、2・5年、3・4年がペアを組んでのぞみます。今回は2年生のチャレンジを取材しました。（5年生は記録係としての参加）2年生が取り組むのは、前跳び・後跳び・あや跳び前・あや跳び後・交差跳び前・交差跳び後・片足交互前振り・駆け足跳びの8種目と各自が選んだ二重跳び・はやぶさ跳びなどのセレクト種目。休み時間等を使って長い間練習してきたようですが、本番ではみんな若干緊張気味。でもそこは、5年生がリラックスするように声をかけます。そして、先生の合図でチャレンジ開始。各種目で1分間跳び続けるのはなかなか大変なことですが、全員が最後まであきらめずに跳び続けます。児童たちが目標に向けて懸命に頑張る姿に、元気ももらった冬の日となりました。



前をしっかりと見ながら跳び続ける

「学習活動全体発表会」～学びの集大成を発表する～ 山梨ことぶき勸学院（全教室）



甲府 A 教室の発表



甲府 B 教室の発表

1月25日に甲州市民文化会館において、ことぶき勸学院「学習活動全体発表会」が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施は3年ぶりとなります。全学院生が集まる中で、卒業年度となる各教室の2年生が発表を行いました。それぞれの地域に関連したテーマで研究が進められており、内容も多岐にわたりました。各発表の終了時には会場から大きな拍手が湧き上がりました。パワーポイントを使って発表する姿は、まさに「学生」そのものでした。甲府教室の研究テーマですが、A教室は「身近な文化遺産を知る（富岡家住宅と高室家住宅）」、B教室は「治水、信玄堤に学ぶ」で、それぞれのクラスの特徴が表れていたように思います。3月14日は卒業式、ことぶき勸学院での学生生活も残りわずかです。※令和3年度から峡東教室は甲府教室との合同で実施（現在令和5年度の学生を募集中。詳細は県ホームページに掲載）



「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」

「株式会社の資金調達を体験」～アイデアが重要～ 甲州市立神金小学校・日本証券業協会



魅力のあるパッケージにするためには？

可能です。(100万単位・自分の学校には投資不可) 学校ごとの目標金額は600万ですが、プレゼンする商品に魅力がなければ投資金ゼロの可能性もあるのでドキドキものです。最初に株式会社の仕組みにつ

いて学び、いよいよ商品の開発開始。他校の児童にアピールできるネーミング・パッケージ・プレゼン内容を短時間で取り組みます。そして、意見を出し合いながら完成したのが地元のフルーツをふんだんに使った「ペガサス・フルーティクッキー」6人全員で行ったプレゼンには説得力もあり、無事目標金額の2倍を集めることができました。最後に一緒に参加した全国の仲間たちとお互いの健闘をたたえ合っ



オンライン上でのプレゼン。反応が分からずドキドキ



いいと思ったプレゼンに投資のシールを貼る

「いきいきマット運動」～手の置き方も重要です～ 山梨市立か納岩小学校



PNFによる柔軟体操を体験する

「前転・後転・側転」の練習です。前転・後転はスムーズにできましたが、側転となるとなかなかの難しさです。手の置き方や体の動き方などを確認しながら、繰り返し練習に励みます。講師の指導を聞くだけでなく、マスターした人からコツを聞くなどの工夫もします。終了時には多くの児童が側転をできるようになりましたが、試行錯誤を通じて得た経験は人生における財産となるものです。「ちょっと難しいな・・・」と感じることに、チャレンジする気持ちをもち続けてほしいと思います。

2月2日に加納岩小学校の6年生を対象に「いきいきマット運動」の指導が行われました。前年度の跳び箱の指導に続いて相澤進さんが講師を務めます。前半は柔軟体操等で体をほぐします。特にPNF

(proprioceptive neuromuscular facilitation; 固有受容性神経筋促通法)を体験すると柔軟性が短時間で高まり、児童たちからも「すごい!」「こんなに曲がったのは初めて!」との喜びの声があがりました。(なおPNFの効果は一時的なので、恒久的にするためには「継続」することが大切とのことで

す)後半はマットを使って



きれいな側転を目指す。練習あるのみ

✂✂✂✂✂✂ 峡東教育事務所からのお知らせ ✂✂✂✂✂✂

☺本号をもって令和4年度のエリアウェブは「終了」となります。取材等で多くの方にご協力いただき、感謝申し上げます。なお、3月中も次号に向けて取材を継続しますので、情報等などがございましたら、ぜひ担当(地域教育スタッフ)までご連絡ください。☎0553-20-2731

☺「異校種間授業参観・県立学校出前授業」の実施状況調査にご協力いただき、感謝申し上げます。次年度の冊子作成に反映させていただきます。あわせて、異校種交流へのご協力もお願いいたします。

PDF版はこちらから

「PDF版」を峡東教育事務所HPに掲載中!
<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiki/backnumber.html>

